

4月20日(水) 10:00am 情報解禁

フランスメディア絶賛!
近年最高の刑務所を舞台にしたフランス映画!(フィガロ紙)
非の打ちどころのない、完璧な作品。(パリマッチ誌)

2020年カンヌ国際映画祭オフィシャルセレクション / ヨーロッパ映画祭最優秀コメディ作品賞受賞

アプローズ、アプローズ! 囚人たちの大舞台

7月29日(金)より全国公開決定!

ティザーポスター & スチール写真 解禁!

1985年、スウェーデンの俳優ヤン・ジョンソンが体験した実話をベースに、実在の刑務所で撮影が行われた『アプローズ、アプローズ! 囚人たちの大舞台』。7月29日(金)より全国公開が決定、ティザーポスターと場面写真が解禁されました!

何をやってももうまいかない、人生産っ淵俳優エチエンヌ。彼にやっつめぐってきた大仕事は、塀の中のワケありクセありならず者たちに演技を教えて更生させること!

彼はサミュエル・ベケットの『ゴドーを待ちながら』を演目と決め、訳あり、癖ありの囚人たちと向き合うこととなる。エチエンヌの情熱は次第に囚人たち、刑務所の管理者たちの心を動かすこととなり、難関だった刑務所の外での公演にこぎつける。彼らの芝居は観客やメディアから予想外の高評価を受け、再演に次ぐ再演を重ね、遂にはあの大劇場、パリ・オデオン座から最終公演のオファーが届く! 果たして彼らの最終公演は観衆の歓喜の拍手の中で、感動のフィナーレを迎えることができるのだろうか?

バイプレイヤーとして俳優の実績を積み傍ら、フィリップ・リオレ監督との共同脚本作品『マドモワゼル』や『灯台守の恋』などで、繊細な心理描写を巧みに描写する筆致が高い評価を得ているエマニュエル・クールコルの監督第二作。ティエリー・カルポエとの共同脚本となる本作は、1985年、スウェーデンの俳優ヤン・ジョンソンが体験した実話をベースにしている。撮影されたのも実在する刑務所の協力の元に行われた。



ポスターは主人公が、まさに観衆の「喝采」=「アプローズ」を浴びているイメージがデザインされている。

コロナ禍の中でリアル開催の中止を余儀なくされた2020年カンヌで、賞を設定しないカンヌレーベルとする公式作品に認定され、その後もフランス公開が延期されていたが、2021年9月によりやく公開されると、ボックスオフィス初登場第二位のビッグヒットを記録した。主演のカド・メラッドは、コメディアン出身の国民的人気俳優。『コーラス』の脇役を演じて注目され、『マイ・ファミリー/遠い絆』でセザール賞助演男優賞を受賞。2008年7月14日には当時のサルコジ大統領の招きで、コンコルド広場で開かれた軍事パレードの「世界人権宣言」前文を読み上げる栄誉ある役を努めている。

映画にとって重要な囚人役の俳優たちは、コメディフランス在籍の俳優など、フランスではまだ知名度の高くない俳優を積極的に起用している。移民や難民、家族、人種、持病、トラウマなど様々なバックボーンを持つ彼らの多様性は、そのまま現代フランス社会の一つの断面を切り取っている。また囚人たちを娑婆へと連れ出すこととなる塀の外での公演が困難な中、主人公のエチエンヌの情熱だけではその実現は叶わなかった。その山を大きく動かしなのが、2人の女性であったことも、この映画の魅力の一つとなっている。

劇中に出てくるサミュエル・ベケットの『ゴドーを待ちながら』は言わずと知れた不条理劇のスタンダードで、日本でも多くの演出家が取り組んでいる名作。柄本明さん親子による『柄本家のゴドー』をはじめ、橋本功さん、石倉三郎さんなど多くの名演出家・名優たちが名舞台を創り出してきた。

圧巻のラスト20分に、観るものすべてが、言葉を失わずにいられない衝撃の感動作。情報ご掲載の程、お願い申し上げます。

『アプローズ、アプローズ 囚人たちの大舞台』素材ダウンロードURL
<https://xgf.nu/29zf> DL期限: 2022年4月23日(土)

アプローズ、アプローズ！ 囚人たちの大舞台

<https://www.reallylikefilms.com/applause>

【STORY】

囚人たちの為に演技のワークショップの講師として招かれたのは、決して順風満帆とは言えない人生を歩んできた役者のエチエンヌ。彼はサミュエル・ベケットの『ゴドーを待ちながら』を演目と決め、訳あり、癖ありの囚人たちと向き合うこととなる。エチエンヌの情熱は次第に囚人たち、刑務所の管理者たちの心を動かすこととなり、難関だった刑務所の外での公演にこぎつける。しかし思いも寄らぬ行動を取る囚人たちとエチエンヌの関係は、微妙な緊張関係の中に成り立っており、いつ壊れてしまうかもしれない脆さを同時に孕んでいた。それは舞台上でもそのままに表出し、観客にもその緊張感がじわじわと伝染し始める。

ところが彼らの芝居は観客やメディアから予想外の高評価を受け、再演に次ぐ再演を重ね、遂にはあの大劇場、パリ・オデオン座から最終公演のオファーが届く！果たして彼らの最終公演は観衆の歓喜の拍手の中で、感動のフィナーレを迎えることができるのだろうか？

カド・メラッド ([コーラス] [オーケストラ・クラス])

タヴィッド・アラヤ / ラミネ・シソコ / ソフィアン・カム / ピエール・ロタン / ワビレ・ナビエ
アレクサンドル・メドヴェージェフ / サイド・ベンシナファ / マリナ・ハンズ(世界にひとつの金メダル)
ロラン・ストッカー(セザンヌと過ごした時間)

製作: ダニー・ブーン (ぼくの大切なともだち・俳優) 他

監督・脚本: エマニュエル・クールコル (アルゴンヌ戦の落としもの)

共同脚本: テイエリー・カルポニエ (パリ特捜刑事) 撮影: イアン・マリト (アルゴンヌ戦の落としもの)

音楽: フレッド・アブリル (サウンド・オブ・ノイズ) 主題歌: "I Wish Knew How It Would Feel to Be Free" ニーナ・シモン

宣伝デザイン: 内田美由紀(NORA DESIGN) 予告編監督: 遠山慎二 (RESTA FILMS)

[2022年フランス映画 | 105分 | フランス語 | シネマスコープ 2.29:1 | 5.1ch | DCP・Blu-ray] 配給: リアリーライクフィルムズ

*スチール写真クレジット ©2020 - AGAT Films & Cie - Les Productions du Ch'timi / ReallyLikeFilms - Photo ©Carole Bethuel

*ポスタークレジット ©2020 - AGAT Films & Cie - Les Productions du Ch'timi / ReallyLikeFilms

<受賞歴等>

2020年カンヌ国際映画祭オフィシャルセレクション

2020年ヨーロッパ映画賞ヨーロッパアンコメディ作品賞受賞

2021年アートフィルムフェスティバル最優秀観客賞受賞

2021年ラポール映画と映画音楽祭金のイビス(映画音楽)賞受賞

2021年カナダ・ヴィクトリア映画祭観客賞受賞

2021年フランス映画祭横浜オフィシャルセレクション

『アプローズ、アプローズ 囚人たちの大舞台』マスコミ試写 (上映時間:105分)

5月9日(月) 13:00 5月24日(火) 13:00 6月3日(金) 15:30

6月21日(火)15:30 7月8日(金) 15:30【最終上映】

場所: 京橋テアトル試写室 (東京都中央区京橋1-6-13 +SHIFT京橋B1F)

オンライン試写リンク、スクリーナーDVDのご希望の方は宣伝までお問い合わせください

エマニュエル・クールコル監督・主演カド・メラッド日本プロモーション
(来日orオンライン)を6月に予定しています。

ご希望・詳細は宣伝担当までお問い合わせください

本リリースに関するお問い合わせは、弊社サイトお問い合わせフォーム、または
info@reallylikefilms.com までご連絡下さい。

2022年 7月29日(金)より 感動のロードショー
ヒューマンラストシネマ有楽町/新宿ピカデリー 他にて全国縦断公開

